

第I章 はじめに

三瓶小豆原埋没林に関する調査は、平成10年11月に行った予備調査、平成11年1月から3月にかけて行った緊急調査、平成11年度の第1次学術調査を経て、平成12～13年度に第2次学術調査を行ってきた。

本報告書は、三瓶小豆原埋没林を中心とした三瓶埋没林に関する平成12～13年度の調査結果の概要をとりまとめたものである。

また、三瓶小豆原埋没林の意義（歴史的な位置づけ）、新装成った三瓶自然館における埋没スギの保存処理システム、現地展示施設建設に伴う用地内での発掘の最新情報などについてもふれている。さらに、三瓶埋没林にかかる平成12～13年度の動き等についても掲載した。

なお、学術調査のうち、県と大学や各種研究機関等が相互協力して行う「共同調査」結果についても、その概要を報告してもらうこととした。この「共同調査」は、県と各種機関または個人が、相互の信頼関係に基づき、それぞれが分担すべき分野をあらかじめ定め、効率的かつ効果的な調査を行うもので、多くの場合県が資試料の提供や現地調査における便宜供与を行い、研究者は提供を受けた資試料等をもとに研究成果を出し、その成果を共有する形をとった。

なお、本報告書においても前回の中間報告同様に、三瓶火山に起因する埋没林を総称して「三瓶埋没林」と呼び、大田市三瓶町多根小豆原地区の埋没林を「三瓶小豆原埋没林」と呼んでいる。また、本文中で呼ぶ三瓶小豆原埋没林の調査区は、図1-2のとおりである。

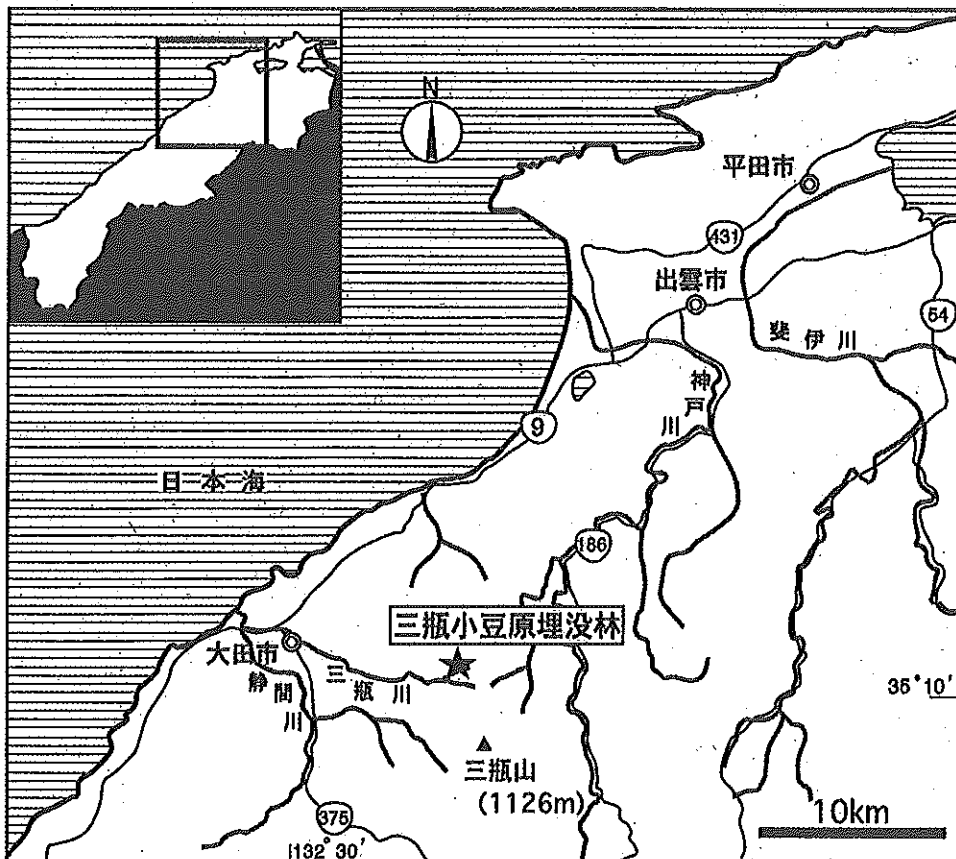


図 1-1 三瓶小豆原埋没林の位置



图 1-2 三瓶小豆原埋没林調査区位置图